

SWCCグループ

2021年3月期 第2四半期  
決算補足説明資料



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）  
（東証1部：5805）

November 4, 2020

<https://www.swcc.co.jp>

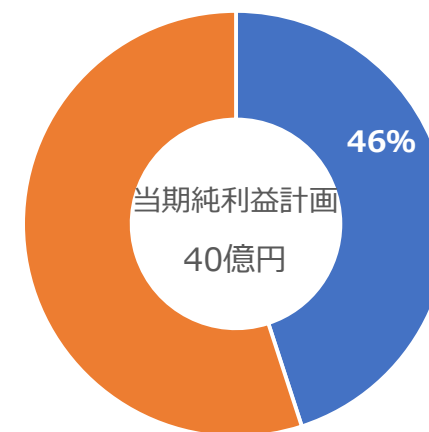
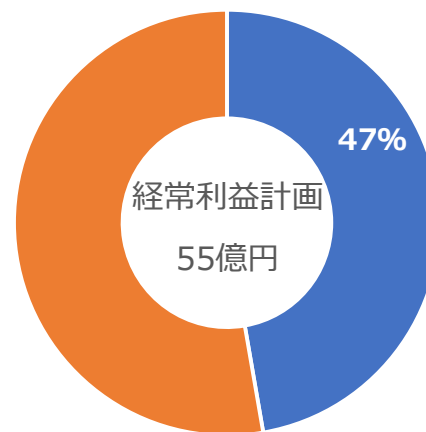
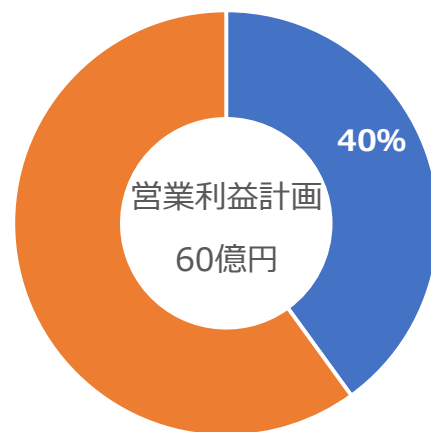
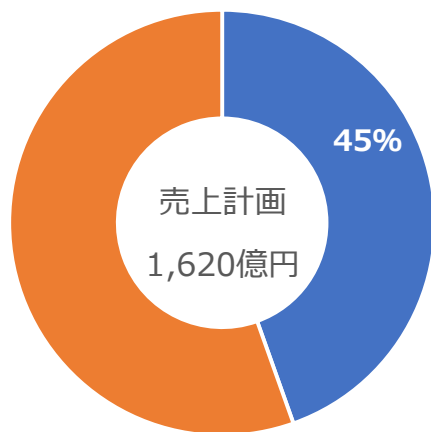


# 2021/3期 第2四半期決算総括

業績：2Qは回復基調も1Qの影響を受け、全事業で前年同期比減収・減益  
上期業績は、ほぼ想定通り推移し下期回復基調

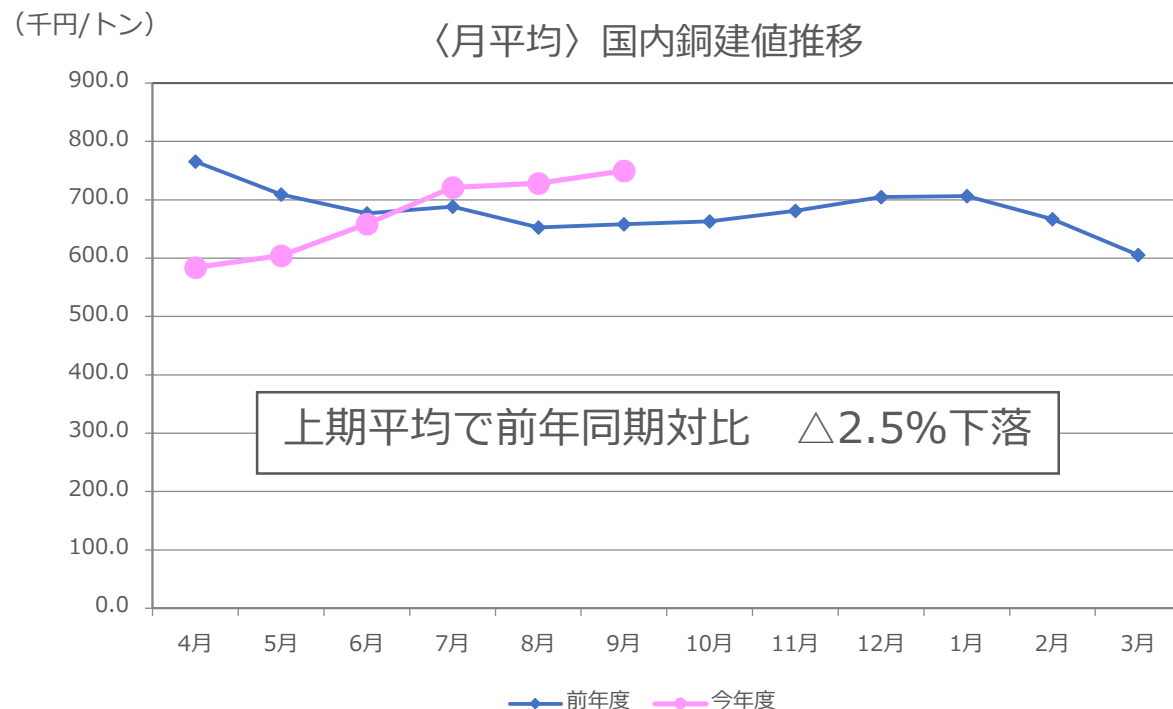
- ・ **エネルギー・インフラ事業**：電力インフラ向け需要は想定通りに推移した。建設関連向け需要は2Qに入り徐々に持ち直したが、前年同期の需要には至らず。
- ・ **通信・産業用デバイス事業**：通信インフラ向けは5G需要等により徐々に持ち直した。産業用デバイスは中国を中心に回復が見られた。
- ・ **電装・コンポーネンツ事業**：コロナ禍による自動車メーカーの生産調整の影響や、電気機械向け汎用巻線の需要低迷が継続した。

## 2Q進捗率（売上高/営業利益/経常利益/四半期純利益）

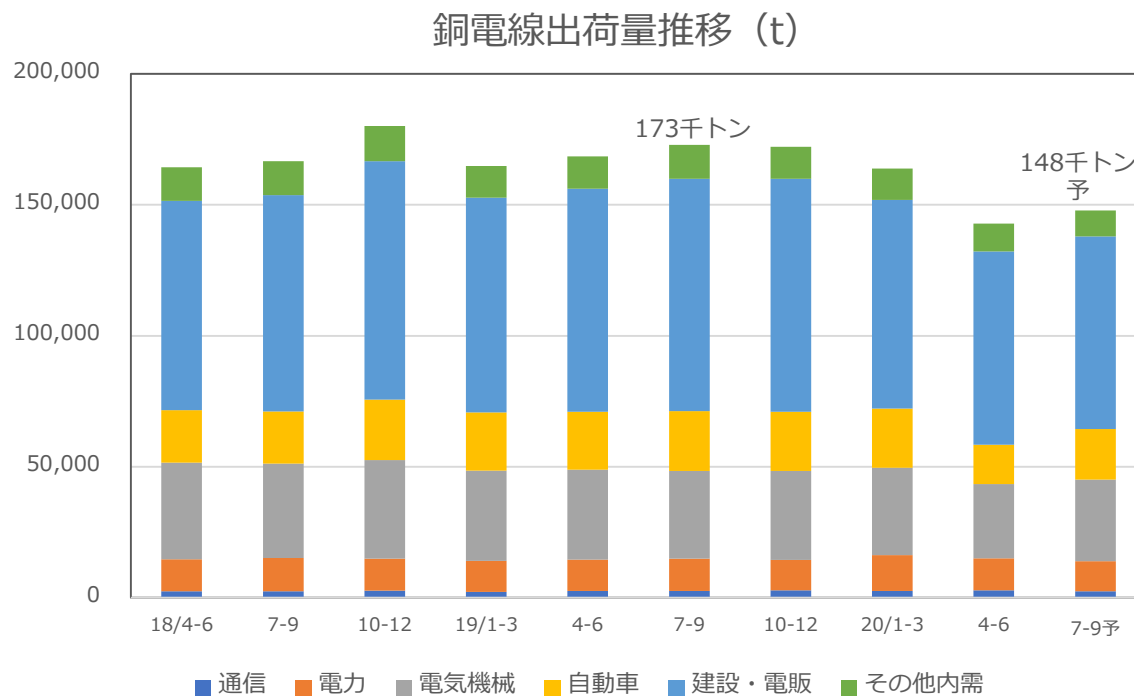


# マクロ環境

- 国内銅価格（円ベース）は、中国の景気回復もあり上昇傾向であるが、上期平均では2.5%の下落。
- 国内の銅電線出荷量は、建設・電販を中心に大きく減少。（前年同期比△15%）  
（9/24：日本電線工業会は、2020年度銅電線需要見通しを前年度比△10.8%へ修正）



出所：(社団) 日本電線工業会データより



出所：(社団) 日本電線工業会データより

# 2Q 連結損益計算書

- 売上高は前年同期比△16.0%、営業利益は△43.5%。  
コロナ禍の影響による急激な需要減により減収・減益、下期回復基調へ。
- 構造改革の効果もあり、2Q累計では2018年度を超える利益レベルを確保。

(単位：億円)

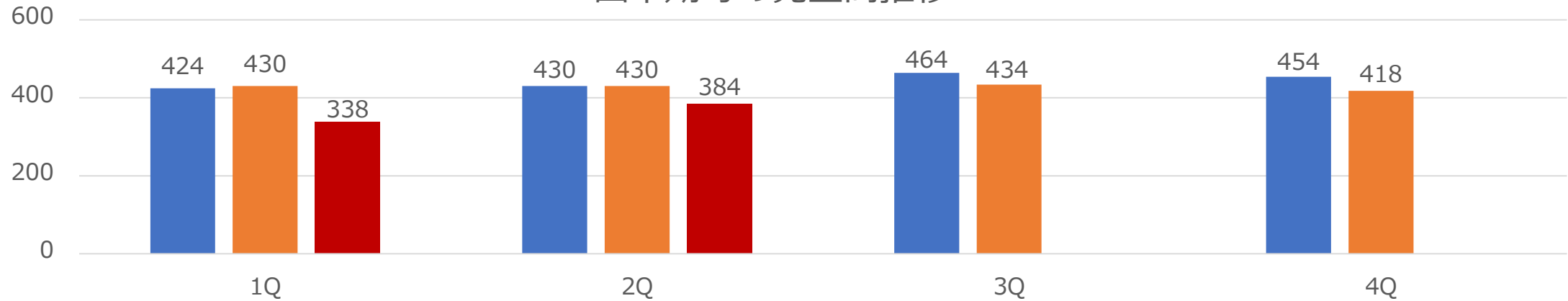
	2018年度 2Q実績	2019年度 2Q実績	2020年度 2Q実績	構成 %	前年同期比 %
<b>売上高</b>	<b>854</b>	<b>860</b>	<b>722</b>	-	△16.0%
<b>売上総利益</b>	<b>98</b>	<b>117</b>	<b>93</b>	12.9%	△20.0%
<b>営業利益</b>	<b>23</b>	<b>43</b>	<b>24</b>	3.3%	△43.5%
<b>経常利益</b>	<b>19</b>	<b>40</b>	<b>26</b>	3.6%	△34.4%
<b>親会社株主に 帰属する 四半期純利益</b>	<b>13</b>	<b>29</b>	<b>18</b>	2.5%	△36.2%

# 四半期業績推移（売上高：過去3期比較）

(単位：億円)

## 四半期毎の売上高推移

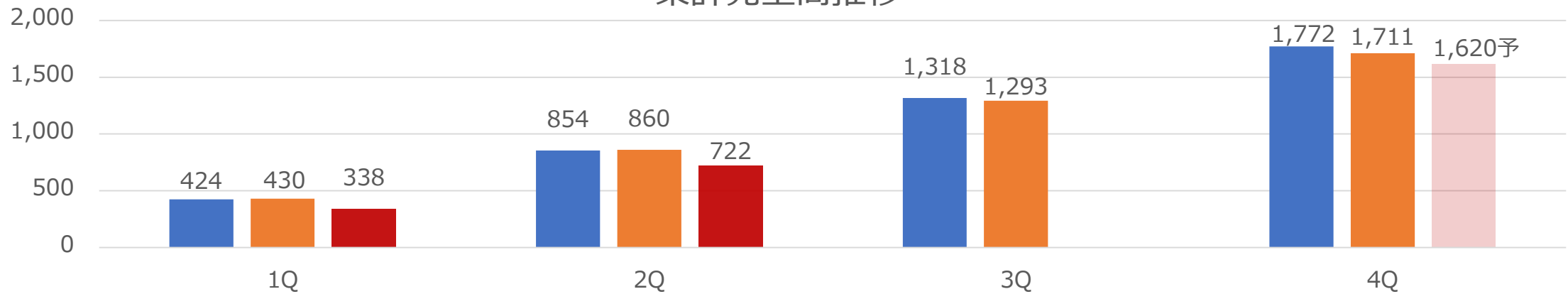
■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度



(単位：億円)

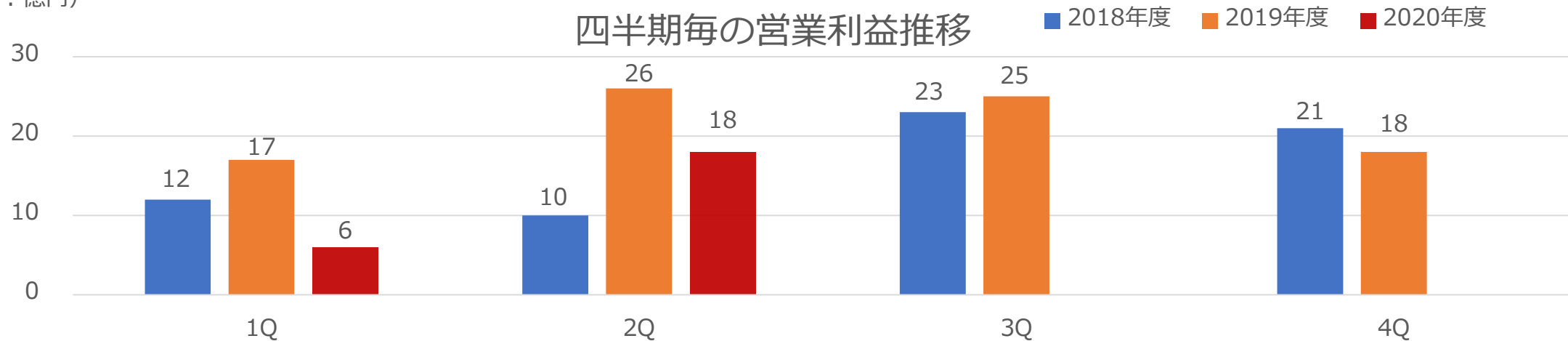
## 累計売上高推移

■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度

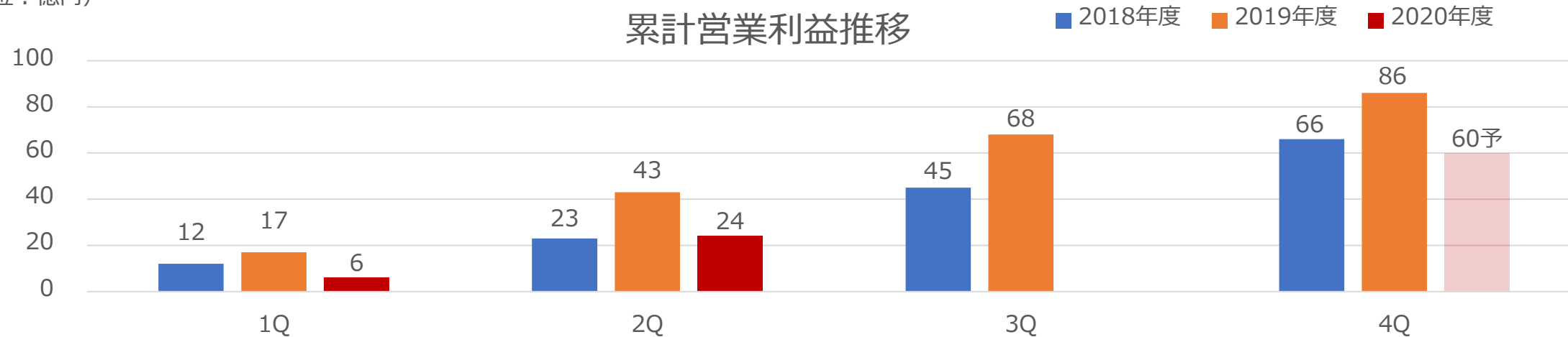


# 四半期業績推移（営業利益：過去3期比較）

(単位：億円)



(単位：億円)



# セグメント情報

- コロナ禍の影響を受け、1Qで大幅な減収・減益となったが、電装・コンポーネンツを除き、2Qは回復基調へ。下期での回復を見込む。

(単位：億円)

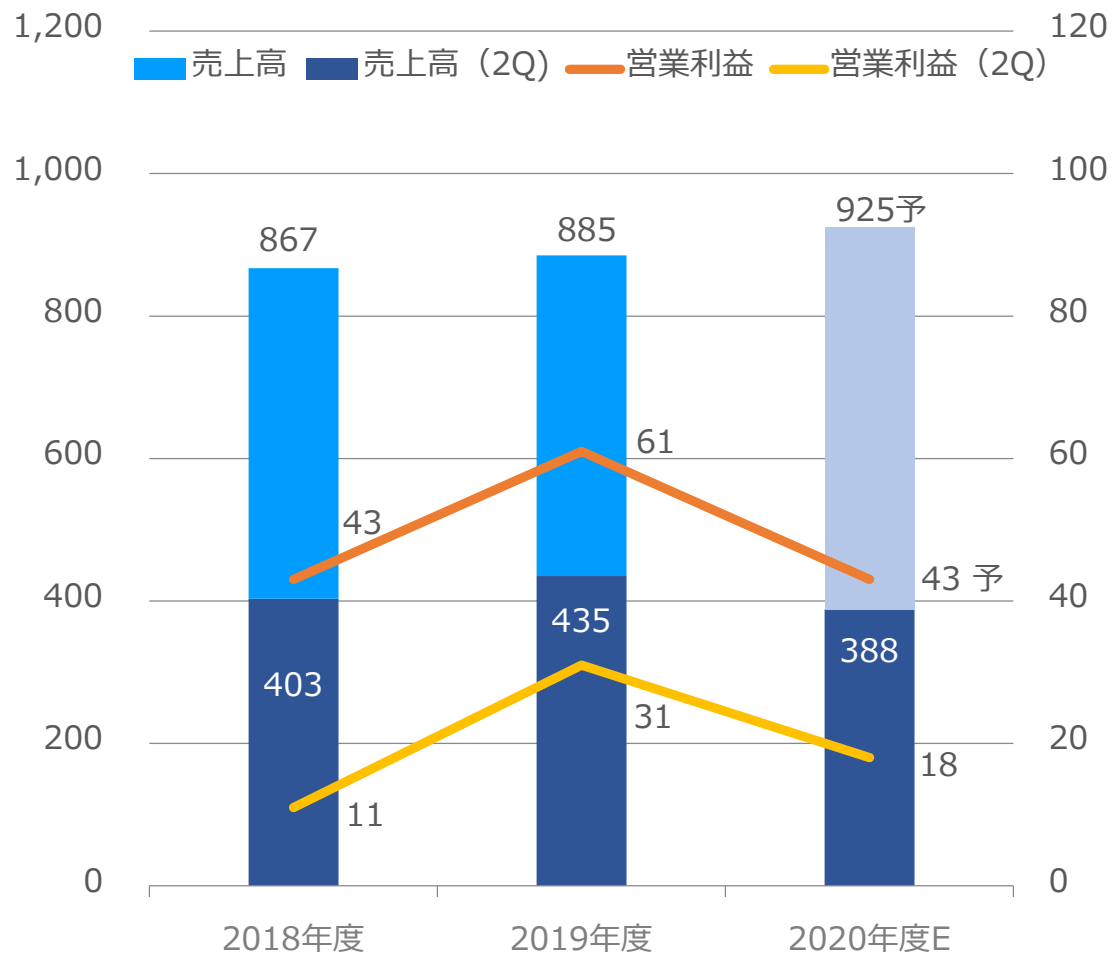
	2018年度 2Q 実績		2019年度 2Q 実績		2020年度 2Q 実績	
	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)
エネルギー ・インフラ	403	11 (2.8%)	435	31 (7.1%)	388	18 (4.6%)
通信・産業用 デバイス	160	9 (5.5%)	153	11 (7.5%)	127	8 (6.5%)
電装・ コンポーネンツ	265	4 (1.4%)	248	2 (0.8%)	183	1 (0.6%)
その他 (内新規事業)	25 (15)	△1 (△1)	24 (14)	△2 (△1)	23 (16)	△3 (△0)
合 計	854	23 (2.7%)	860	43 (5.0%)	722	24 (3.3%)

# エネルギー・インフラ事業

# 実績&業績計画



(単位：億円)



※2019年度3Qより一部セグメントを見直しております。

## 第2四半期実績

<p>◆建設 汎用電線、 免震装置、制振・防振</p>	2Qに入り建設工事案件の需要が回復基調も前年同期に届かず。
<p>◆電力インフラ 電力ケーブル、工事、 電力機器部品(SICONEX®)</p>	期初に想定した通りに推移。

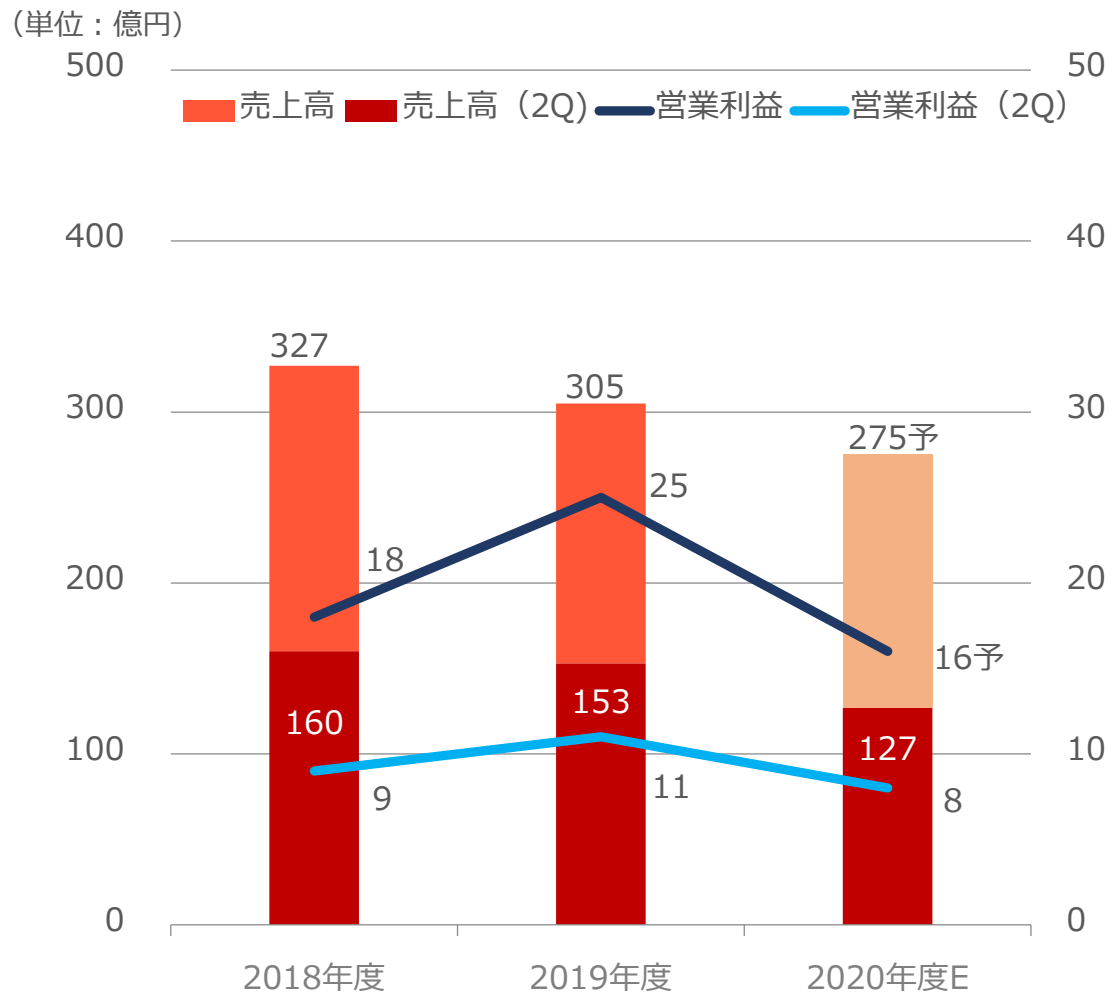
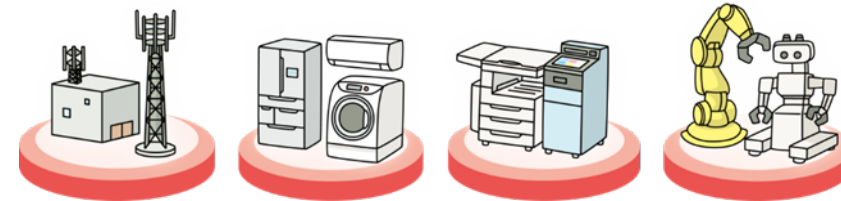
## 通期見通し

電力インフラ需要は堅調。コロナ禍の影響で設備投資や住宅着工の需要は落ちるも最悪期は脱し、下期に向けて回復を想定。

売上高は925億円、営業利益は43億円を計画。

**営業利益率：4.6%（前年度6.9%）**





※2019年度3Qより一部セグメントを見直しております。

## 第2四半期実績

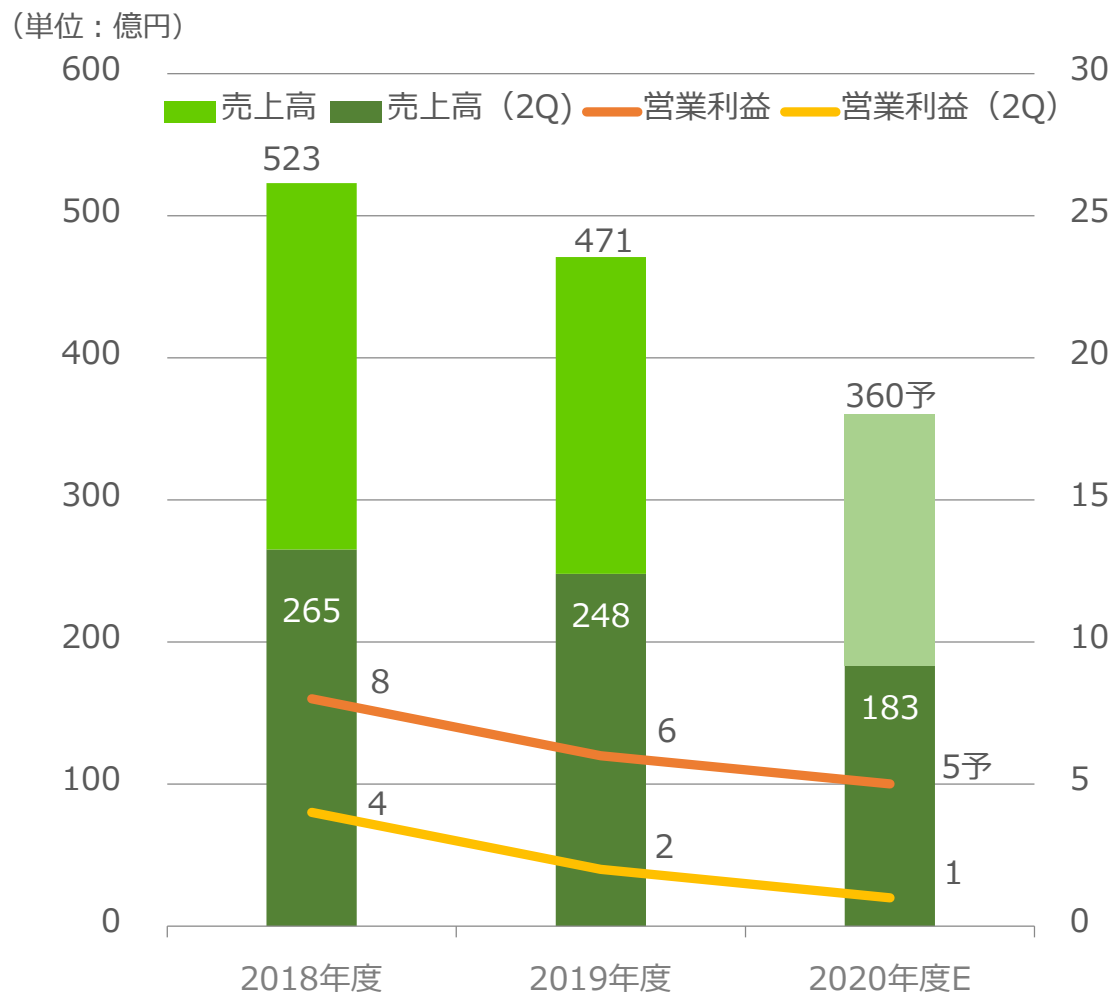
◆建設 メタルケーブル、光ケーブル	5Gサービス向け等の通信インフラ増強に伴う需要があったものの、前年同期比では需要が低迷。
◆通信インフラ LANケーブル、光ケーブル	
◆家電・産業機器 ワイヤハーネス	サプライチェーンの混乱は収束し、中国を中心に需要が回復したものの、前年同期比では需要が低迷。
◆複写機 精密デバイス	

## 通期見通し

国内通信インフラ増強、GIGAスクール等の需要を取り込む。精密デバイスはコロナ禍によるサプライチェーンの変化に対応した構造改革を推進中。

売上高275億円、営業利益16億円を計画。

**営業利益率：5.8%（前年度8.2%）**



## 第2四半期実績

◆自動車 無酸素銅MiDIP®、 銅合金、高機能巻線	コロナ禍による自動車メーカーの 生産調整が影響し、需要が低迷。
◆電気機械 他 汎用巻線	設備投資関連等の電気機械向け 汎用巻線の需要低迷が継続。

## 通期見通し

汎用品から高付加価値品主体の事業へ変革を推進中。  
下期以降の市場回復と環境対応車率増加を見込み、  
無酸素銅MiDIP®・銅合金・車載用巻線の増産により  
収益性の改善を目指す。

売上高は360億円、営業利益5億円を計画。

**営業利益率：1.4%（前年度1.2%）**

# 貸借対照表（前期末比較）

・自己資本比率は34.3%（前期末比2.0ポイントアップ）

（単位：億円）

	20/3/31	20/9/30	増減
現金・預金	43	40	△3
受取手形・売掛金	412	382	△30
棚卸資産	217	212	△5
その他	45	52	+7
<b>流動資産 計</b>	<b>717</b>	<b>686</b>	<b>△31</b>
有形固定資産	399	401	+2
無形固定資産	14	13	△1
投資その他の資産	94	96	+2
<b>固定資産 計</b>	<b>508</b>	<b>510</b>	<b>+2</b>
<b>資産 合計</b>	<b>1,225</b>	<b>1,196</b>	<b>△29</b>

	20/3/31	20/9/30	増減
支払手形・買掛金	186	182	△4
短期借入金・社債	295	291	△4
その他	157	133	△23
<b>流動負債 計</b>	<b>638</b>	<b>607</b>	<b>△31</b>
長期借入金・社債	119	106	△12
その他	68	68	△1
<b>固定負債 計</b>	<b>187</b>	<b>174</b>	<b>△13</b>
<b>負債 合計</b>	<b>825</b>	<b>781</b>	<b>△44</b>
資本金	242	242	0
資本剰余金	57	57	0
利益剰余金	62	76	+14
その他	38	40	+2
<b>純資産 合計</b>	<b>400</b>	<b>416</b>	<b>+16</b>
<b>負債・純資産 合計</b>	<b>1,225</b>	<b>1,196</b>	<b>△29</b>

# 下期の市場環境見通し

- 自動車向けは、下期より回復基調に向かうと想定。

	市場環境（下期）		施策対応
エネルギー ・インフラ	建設	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>需要変動への生産体制対応</li> <li>再生可能エネルギーの系統連系ビジネスモデルの強化</li> <li>制振制音事業の構造改革推進</li> </ul>
	電力インフラ	→	
	免震・その他	→	
通信・産業用 デバイス	通信ケーブル	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>5G立上がり、GIGAスクール構想等の需要捕捉</li> <li>新たなサプライチェーンと地産地消(中国、東南アジア)への構造改革</li> <li>ワイヤハーネスの新体制始動と海外投資の強化</li> </ul>
	ワイヤハーネス	→	
	精密デバイス(複写機用)	→	
電装・ コンポーネンツ	高機能製品(自動車等)	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車産業の構造変化、環境配慮型自動車割合増加に向けて生産体制を增強</li> </ul>
	一般汎用製品	→	
その他 (内新規事業)	IoTソリューション	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレワーク対応システム商材増強</li> <li>遠隔医療やスマートワーク化の加速によるメディカル向け部材、システム・サービスの需要増加に対応した拡販強化</li> </ul>
	インダストリ(医療等)	→	

# 2021/3期 通期業績予想

- ・ 5月15日公表の通期業績予想を据え置く。

(単位：億円)	2019年度 実績	構成 %	2020年度 計画	構成 %
売上高	1,711	—	1,620	—
売上総利益	237	13.9%	—	—
営業利益	86	5.0%	60	3.7%
経常利益	79	4.6%	55	3.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	55	3.2%	40	2.5%
配当/配当性向	15円	8.2%	15円	11.2%



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）  
（東証1部：5805）

### お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）  
事業戦略統括本部経営企画部  
TEL：044-223-0520  
E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

<https://www.swcc.co.jp>



本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。